

第10巻 パッティングの極意

パッティングについての基本から、極意まで順番に検証していきたいと思います。各項目の説明の中に重複する文章が出てくると思いますがその項目を説明するのに必要な内容文章なのであえて掲載してあります。

1 パッティングの基本

方向性

イメージライン上に架空の線をイメージしそのラインに平行にアドレスします。

距離感

ショットと同じで、どの位クラブを引いて打つと何メートル転がるか自分の距離をつかみます。

(例)右足まで引いて打って歩測で約7歩転がったら5歩なら引くのを小さく9歩なら大きく引いて打ちます。

狙い方

カップとラインを結ぶラインを想定します。

次に、狙いやすいようにボールとカップを結ぶラインの中間点にスパットをみつけます。

もう1度全体を見てその途中のラインの凹凸をチェックします。頭の中で全体をまとめ(順目か逆目か、スパットは?)その距離だけ打ちます。パットのショートは入りません。30~50cm位オーバーする力加減で打ちましょう。

どちらに曲がるか判らなくなったらカップのほうからボールを見る。(アンジュレーション凸凹が良く見え、狙うポイントがわかります)

芝目の読み方

- ・白は順目、黒は逆目 光の反射により色で見分けられる。
- ・「山から順目」が多い 芝目は雨水の流れに沿って決まりやすい。高いほうから低いほうへ順目。
- ・太陽の方向へ順目 芝は太陽に向かって伸びる習性。
- ・次のティーグラウンドに向かって順目が多い。

上記は、絶対ではありません。グリーン中央から360度見て状況判断することが大事です。

ボールの位置



イメージラインを考えそのラインと平行に構える。

ボールの位置は左眼の真下。

距離はどれ位引いて打つかによって変わります。強弱ではありません。

パットの時のヘッドは真っ直ぐ引いて真っ直ぐ出すのが基本！

方向性が悪く、打ち出し後にボールが右や左に行くのはインパクトでフェイスの向きがずれている証拠です。

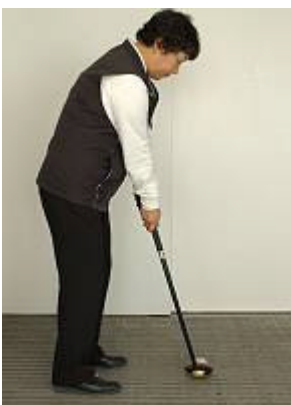
上半身の体勢が悪かったり、ストローク中に手首を使ったりするとフェイスの向きが不安定になります。パターのヘッドは真っ直ぐ引いて真っ直ぐ出すのが基本です。それは、振り幅が大きくなっても変わりません。長いパットでは、インサイド・インの軌道になりフェイス面が開いて閉じるような動きになりますが、それはあくまで自然の流れであり、意図的に作ってはいけません。これが、フェイス面を不安定にする原因となります。少なくともインパクト前後の約30cmはストレートな軌道をイメージしてください。



前後30cmのイメージ

パッティングの時の体重配分！

ボールの近くに立ちながら、スムーズに腕が振れるようにするには、体重をつま先寄り(拇指丘)に置きます。カカト体重では、ハンドアップやハンドダウンになりがちになります。それによって、腕も振りにくくブレやすくなります。背中の上部を吊り上げられている感じで軽くカカトを浮かします。これで、つま先側体重の感覚がつかめます。なるべく高く構え、ボールに近く立ちつま先側体重で構えるとよりカップインの確率が高まるでしょう。それから、上体は左右に傾けないということを心がけると良いでしょう。



つま先側に体重を乗せる(拇指丘へ！)

テレビ放映の時のレッスン内容



TVH 「パークゴルフの法則」で 佐々木由衣子アナウンサーと

パターの極意 (方向性が悪い方)

- 1)体の軸が、ずれていないか確認して下さい。
- 2)インパクト時、手首が開いていないか、返したりしていないか確認して下さい。
- 3)グリップの握り方を変えてみては？ (左手の人差し指を右手の小指の上に重ねると、右手が固定でき安定します。さらには、右手の手のひらで握る、または右手人差し指を伸ばして構えると、押し出し、ひっかける事が少なくなるはずです。)
- 4)球の前後 30 cmは、ストレートに引き、押し出すイメージで打ちましょう。
- 5)体重は、つま先側に寄せましょう。
- 6)球は、左目の真下に置きましょう。
- 7)クラブは、吊っている感覚で持ちましょう。



テレビTVH 「パークゴルフの法則」 佐々木由衣子アナウンサー